

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		自治会長を通じて老人会への参加や事業所にきてもらい地元の方々との交流の場を増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の防災会長と話し合いの場を設け地震発生時に緊急の避難場所として施設を提供させてもらう取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価実施の意義を全職員が理解し、評価を活かしながら柔軟に取り組んでいる		評価を受け止めご利用者やご家族の方などに使いやすい施設となるよう努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご利用者のご家族、地域の自治会長や近隣施設の施設長に参加してもらいサービス内容の報告、行事報告、ご利用者の状況等について報告を行い助言を受け改善への取り組みに役立てている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点があればその都度、市役所や区役所に相談を持ちかけサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現段階では必要性のある方がいないため、話し合いや活用はしていない。		今後、必要性のある方がいた場合に備え、迅速に対応出来るよう学機会を設けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	日々ご利用のことを観察しており、疑いのある場合は行政や地域包括支援センターに相談するよう努めている。		高齢者虐待防止関連法について学べる機会がある時は、積極的に参加し虐待防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご利用前に十分な話し合いの場を持ち説明を行っている。不明な点や疑問がある場合は、その都度ご理解と納得いただけるように説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に管理者や苦情受付第三者委員も参加し毎回違うご利用者のご家族に参加をお願いしながら、不満や苦情等意見交換できる環境づくりに努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事業所独自の新聞を3ヵ月に1度発行し、健康状態や利用状況の報告を行っている。また体調不良時にはその都度、迅速に電話連絡している。金銭管理はご利用者及びご家族から管理者に依頼があれば保管できるようにしている。その際に金銭管理委託契約を結び管理しながら毎月収支を報</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見や苦情、不満は専用の受付窓口の案内を契約時、ご家族に説明し渡している。寄せられたご意見、苦情、不満は運営に反映させられるよう職員の間で話し合いの場を設け改善に努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案はいつでも記入できるように専用のノートを活用し運営に反映出来るよう機会を設けている。出された意見や提案は毎月の職員会議の際に検討し改善に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者やご家族の要望に合わせて柔軟に対応出来るよう調整に努めている。必要な時間帯に職員を確保するために職員会議の際に話し合っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は施設が隣接なため異動となっても顔を合わせる機会が多くご利用者への大きなダメージに至っていない。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>いろいろな状況に合わせて各種のマニュアルが整備されている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	年間の研修計画は立ててあるが、実際には勤務に支障が出てしまい研修の機会を確保することが難しく計画通りには行われていない。	職員が外部研修を受講する機会を作りサービス向上を図っていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあるが、勉強会や相互の訪問までには至っていない。ネットワークづくりは行っており研修会にさんかしている。	同業者間で職員の交換研修を計画したが、まだ実施までには至っていない。情報交換やサービスの質を向上させる取り組みをしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現状では職員のストレス軽減に向けた取り組みは行っていない。	職員のストレスの原因を把握し軽減や働きやすい環境の整備に取り組んでいく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の取り組みについて把握しているが向上心を持って勤務できる働きかけは行えていない。	運営者は職員の更なる状況把握に努め意欲と向上心を持って働けるよう取り組んでいきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者のお話をよく聴きながらご家族や担当の介護支援専門員から情報収集を行いこれまでの生活等を把握し安心してその人らしく生活出来るよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から利用開始前に十分に話し合う機会をつくり、疑問や不安に思っていることをよく聴き共感しながら信頼関係を作る努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談を受けた際はよく話を聞きいて、現在必要とされるサービスを見極めて窓口として他の事業所に連絡をとり調整を図っている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ご利用前に十分な説明を行い徐々に馴染んでもらえるよう精神面を考慮し、疑問や不安に思うことをご家族の協力を得ながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は共に生活し「共に学び合い」、「教えていただく」という考えを共有し支えあう関係を築いている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	日常生活状況をご家族が把握出来るよう面会時や必要に応じて電話連絡し、情報交換をしている。その他にご家族と職員の親睦を深めるために行事への参加を促し協力を得ている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	ご家族との関係を理解するために利用開始前に十分な話し合いの場を持ちサービス内容の確認行って関係が円満になるよう努めている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	ご本人がこれまで大切にしてきた人間関係が途切れることが無いように電話を掛けることが出来る体制になっている。また、馴染みの友人や知人が気軽に尋ねられる環境づくりに取り組んでいる。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	ご利用者一人ひとりが孤立しないようそれぞれに役割があり、出来ること・出来ないことを共に支えあって生活出来るように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用者をご家族に困り事や相談等がある場合はいつでも連絡してもらえるよう説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とご家族の意向に合わせたサービスを提供できるようご利用前に面談を行い把握に努めている。また意向の変更があった場合は話し合いの場を設け、検討しサービスを提供している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の会話から情報を集めサービスの提供に活かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	3ヵ月に1回、検討会議を行いサービス内容の継続・見直しを行っている。会議の内容を会議録に記載して職員間での周知に努めている。また、その日の身体状態に合わせて一人ひとりのサービス提供を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時はご本人とご家族、関係者から情報収集を行い意向を含めた介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて計画の継続・見直しを行っている。状態急変時にはご家族に説明、相談しすぐに計画の見直しと作成をして急な変化でも職員が対応できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画をもとにした個別記録により情報を共有し、計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域主催の防災訓練に参加し、消防と地域住民との連携を図っている。また、ボランティアの方々から定期的に来てもらっている。		ご利用者本人の意向や必要性に合わせて地域資源の活用ができるよう交流の場を増やしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人とご家族の意向や必要性に応じて他のケアマネジャーやサービス提供の事業者と協力を得て対応、支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2カ月に1回開催している運営推進会議に参加してもらい情報交換をして協働している。また、事業所間での連絡会議等で相談を持ちかけている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご自宅で生活されていた頃と同じ、かかりつけの医院と主治医が個々におり適切な医療を受けられるよう連携体制をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医から診断や治療を受けられるように受診の際は 情報提供を行い医師との関係作りに努めている。提携先の医院や認知症専門医から支持や助言を受けられるように支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師と日常の状態を確認しながら健康管理に努め特変時や必要の際は、医療機関との連携を図っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は医院と密に連絡をとり経過や状態の把握に努めている。退院後スムーズにサービス提供が出来るよう連絡、調整をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族とよく話し合い施設側が出来る事・出来ない事を伝えられている。また、早い段階でご家族に相談をお持ちかけ納得できるよう説明している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態変化の予測等を看護師や医師と話し合い変化に合わせたサービス内容を検討・実行している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご利用前や他へ移住する場合は、ご家族から協力してもらえよう事前に了解を得ていると共に他事業者から十分な情報収集、または提供を行いダメージを最小限に抑えるよう努めている。退所後も連絡をとり、安心して生活できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員はご利用者一人ひとりの会話やご家族から情報収集を行い、把握に努めると共にその方の尊厳を大切に声掛けを行っている。個人記録の取り扱いは鍵の掛かる場所で保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>職員はご利用者一人ひとりの思いや希望を見出せるよう話を良く聴きいて説明を行い自己決定出来るよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決まりごとはあるが、ご利用者を第一に優先して生活のスペースを乱さないようその日の体調に合わせて支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族のご協力を得ながらご本人が望む理・美容店に行けるように努めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者一人ひとりの好みや力量に合わせて食材の下準備や後片付けを職員と一緒にやっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人が希望される飲み物を提供出来るように声かけをしている。 お酒やたばこに関しては当施設では提供できない事をご利用開始前に説明し了承を得ている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な声かけにて排泄の援助を行い、ご本人から交換の訴えがあった場合はその都度対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週に3回は入浴してもらえるよう声かけを行い清潔の保持に努めている。その他に入浴の希望があれば随時対応している。		夜間の入浴希望があれば職員の勤務体制を調整し実行していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況やその時々状況に合わせて休息できるよう声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除、洗濯、園芸等一人ひとりの個性や力を活用しながら役割や楽しみごと見出し支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金はご利用者の自己管理をお願いしている。力量に応じて使えるよう支援している。		希望に応じて買い物に出かけられる機会を増やせるよう努めていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者から希望があった際は、外出できるよう支援している。その他、天候の良い日はこちらから外出の機会を設け気分転換に努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事計画を立案しご利用者とご家族、職員と一緒に外出できる機会をつくり支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けられる体制をとっている。		手紙のやり取りが出来るよう希望を募り対応していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの方がいつでも気軽に来てもらえるよう雰囲気作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアのあり方を全職員が理解しており身体拘束をしていない。今後も身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関や居室に鍵を掛けているが、日中は鍵を掛けずに対応している。外出傾向にある方は玄関と裏口に備付であるセンサーを活用し希望に応じて一緒に外出している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者の所在や様子を随時確認するように努め、その場を離れる際は、職員間で声を掛け合いチームで生活をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(薬、洗剤)等は鍵の掛かる場所で保管している。刃物に関してはいつでも使えるような場所に保管しているが、使用する際は事故の無いよう職員見守りのもと使用している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為、ヒヤリ・ハット報告書を活用して対策を立てているが、事故が発生した場合は事故報告書を記入して改善と再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	故発生の際は、独自の緊急連絡体制が整っており、必要の場合は医療機関との連携を図っている。応急手当の訓練は実施したことはあるが、定期的な訓練は実施していない。		全職員が緊急時に備え、応急処置が出来るよう消防機関と連携を図り定期的な訓練を実施していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災会長にご協力を得られるよう運営推進会議に参加をしていただき情報交換や交流を図っている。また、地域の方々からもご協力を得られるよう地域主催の防災訓練に参加してもらいご理解とご協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用される前にご家族に起こり得るリスクについて話し合いの場を持ち説明している。また、状態変化に伴ったリスクや対応策を随時ご家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタル測定を行い体調の変化や訴え等で異変を察知し 医療機関への受診やご家族への連絡を速やかに行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者一人ひとりの服薬状況を処方箋以外に見やすいよう一覧化にして、職員が分かりやすいようにしている。朝・昼・夕・就寝前と1回分の用量を小分けにして服薬の支援をしている。処方が変わった場合は、ミーティング時や業務日誌に記載し全職員の周知に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や影響を職員が理解しており、水分摂取や体操の参加を促しなるべく薬に頼らないよう支援している。下剤を服用し排便コントロールされている方は、最終排便日の把握や服薬量の調整を医師と連携をとり便秘予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い清潔保持の支援をしている。必要な方には職員が援助させてもらっている。		年2回提携先の歯科衛生士に訪問してもらい口腔ケアの指導と助言をもらえるよう取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状態に合わせた食事量や調理方法にして食事摂取量を日々観察・記録し把握に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応策として手洗いうがいの徹底やアルコール消毒、次亜塩素での消毒を行い予防に努めている。ご家族の面会時に手洗いうがいの励行にご協力をいただき蔓延化を防いでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	料理器具は使用前後にアルコール等で消毒し、使用後は食器洗い洗浄機を使い高温殺菌をして衛生管理をしている。また、定期的に次亜塩素を使い消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周囲には花を植えたり、花壇作り等をして出入りしやすい雰囲気作りをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節ごとの飾りを、ご利用者と一緒に作成して落ち着いた生活空間の中で安心して生活出来るよう取り組んでいる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には掛け布団や座椅子、枕にテーブル等を設置し自由に過ごしてもらえるような工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者一人ひとりの居室には、ご自宅で使われていた馴染みのある物品を持ち込んでもらい、居心地よく生活出来るよう取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いがないよう毎日こまめに掃除をしている。温度と調節は季節や気候に応じて身体状況に配慮しながら空気の入替えや冷暖房を使用し状況に応じて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の廊下や浴室、トイレ等には手すりや滑り止めを取り付けてあり安全かつ安心して自立した生活出来るように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力を活かして自立して生活出来るよう、必要な場所(浴室やトイレ等に)表示を付け混乱しないようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺は草木や花を植えて楽しんでもらえるように工夫し、玄関周りは歩きやすいよう整備している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 地域の方がとの関わりを大切にして、地域主催の行事や防災訓練に積極的に参加しご理解とご協力を得られるよう取り組んでいる。